

令和6年度卒業式式辞

グラウンドに暖かな風が吹き、校庭に沿って流れる国安川のほとりの桜の木々にも春を待ちわびる生命の息吹が溢れ、春の確かな訪れを感じる今日の佳き日に、愛媛県議会議員 毛利修三 様をはじめ、ほか多数の御来賓の皆様の御臨席を賜り、愛媛県立吉田高等学校第76回卒業証書授与式が挙行できますことは、我々教職員にとって、大きな喜びであり、心から感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与された108名の皆さん、卒業おめでとう。そして、保護者の皆様、本日はお子様の御卒業、誠におめでとうございます。コロナ禍などを経ての、この三年間お子様の健やかな成長を願って一番近くから見守ってこられた皆様には、さぞかし御苦労も多かったことと思います。今日の晴れの日を迎え、立派に成長されたお子様の姿に感慨もひとしおのことと思います。教職員一同、心からお慶びを申し上げますとともに、今日まで本校にお寄せいただきました御支援と御協力に改めて御礼申し上げます。

さて、卒業生の皆さんは、明日からは、もうその制服はいりません。三年間、その制服に袖を通し登校してきた日々も今日をもって終了となります。この場所を飛び立ち、それぞれの夢へと生きていくこと、それが卒業です。明日からは、着る服さえも自分で選び、行動のすべてが自分自身で一つ一つ決断しながら、生きていくこととなります。卒業式は、皆さんの新しい人生のスタートです。自分の思いや考えで自分なりの生き方を、自分が思い描くように生きてみてください。これからの皆さんの未来には可能性しかない、私は考えています。

しかし、これからの社会は、変化の激しい時代、この先がどうなるのか先の全く予測が難しい、厳しい環境であるのも事実です。今年が昭和で言うと昭和100年に当たるそうですが、100年前に、今この時代、現代が全く予想できなかったと同じように、100年いや、それ以上の変化を伴う未来が訪れます。正解は誰にも分かりません。教科書には正解は必ず書かれてあったかもしれませんが、これからの人生は、正解のない問いに、自らが自らの正解を出していく時代です。自分の責任で生きていくスタートラインに、皆さんは立っています。自分が選んだ道が、正解であり、いや、正解になるように生き抜いてほしいと思います。生き抜く力の基礎となるものを、三年間のこの高校生活からそのすべてを学び、それが、皆さんの支えになるはずで、そのすべては、決してコン

ピュータやA Iでは作り出せない、確かでリアルなものであり、心の中で色あせることなく、輝き続ける財産となります。勉強、部活動、運動会、文化祭などの学校行事、友人との何気ない会話や交わした挨拶、グラウンドのにおい、カバンの重さ、汗ばんだ体操服、教科書の手触り、あの日あの時、皆さんの体のすべてが感じ取ったもの、考えたこと、思ったこと、話したこと、叫んだこと、涙したこと、デジタルではなくアナログで生きてきたそれぞれの時間が人生の財産であり、確かな手ごたえのあるものとして、皆さんを支えるものにはるはずです。

今後、生きていく中で、立ち止まってしまう時、本校の校訓に基づいた四つの精神（こころ）と、自分の思い悩む心とを照らし合わせてみてください。きっと生きていくヒントを与えてくれます。自主的で責任ある態度で行動する心、誠実で思いやりのある態度で人に接する心、自然を尊び公共心を持って生活する心、向上心を持ち進取の気風で行動する心、三年間で培ってきた、この四つの精神（こころ）を思い出し振り返るとき、必ず光は見えてくるはずです。吉田三傑のお一人、山下亀三郎氏は15歳の時にはもう既にこの吉田の地を旅たち、そののち、地域の発展に大きく貢献しました。次は、皆さんの番です。自分の夢に向かって大きく羽ばたいてください。

卒業生、一人一人の輝かしい未来が私には見えるように思います。卒業生の皆さんの前途に幸多からんことを心から願ひまして、私からの式辞といたします。

令和七年三月一日

愛媛県立吉田高等学校

校長 宮植 尋史